



櫛の如く

第201号

発行
北海道津別高等学校
PTA事務局
(執筆兼任委員)
津別町字共和32-2
0152-76-2608

生徒一人一人が充実した学校生活を送るために

年明け、寒さも一層厳しくなっていく日々ですが、私がPTA副会長に選出されて一年が経とうとしています。思えば十数年前に通っていた母校に今度はPTAとして関わっていくことに感慨深いものがあります。

今年度は新型コロナウイルス感染症が五類に引き下げられ、以前のように学校行事を行うことが出来たと思われ、それこそ生徒たちの頑張りはもちろん、先生方や保護者の皆様のご協力のおかげです。誠にありがとうございます。

さて、今年度も残り二ヶ月といった時期まで来ました。一年生と二年生は次の学年に進級、三年生はそれぞれの進路を目指して旅立っていくと思います。高校卒業後は三年間勉学を共にしてきたクラスメイトと離れ離れになる人もいるでしょう。私が生徒の皆さんに伝えたいことは、人と人との繋がりを大切にしたいということです。普段の日常の中でも様々な人との出会いがあると思います。その出合いを経てコミュニケーション能力が培われ、友人や家族とも良好な関係を築くことが出来るようになります。頭の片隅でも記憶に留めておいて今後に生かしてもらえたらと思います。最後に生徒たちが充実した楽しい学校生活が送れるように私達PTAも一丸となって協力していきたいと思っています。

2024年7月より、新一万円札の顔は渋沢栄一さんとなります。

どのようなお方か少し紹介します。

明治から大正時代に経済界で活躍しました。およそ500以上の企業の設立や運営に関わったとされており、「近代日本経済の父」や「日本資本主義の父」と呼ばれています。さらに企業だけではなく、およそ600を越える社会・教育事業にも関わっているといわれています。また、日本初の銀行を設立するなど、数々の偉業を成し遂げているのが渋沢栄一さんです。「渋沢栄一さんは何をした人ですか？」という質問には簡単には答えられません。なぜなら偉業や功績があまりにも多すぎて、一つだけ挙げるのが難しいからです。もう一つの理由は、500以上の企業の設立・運営に関わっているが、ご自身では財閥をつくらなかったことと理由として挙げられます。自身の利益を追求して私腹を肥やすために活動していたのではなく、社会をより豊かにするために動いていた方です。

昨今の世の中を見て、嘘をついたりごまかしたりすることは、恥すべき行為です。

お札の顔となる「渋沢栄一」さんについて、豊かな人生を送るためにも探究学習をしてみてはどうでしょうか。



PTA副会長
長瀬 加寿哉



校長
太田 徹

生徒一人一人が充実した

新一万円札の顔

つべつ学特集！

つべつ学Ⅰ

- ・林業体験（10月）
- ・畜産体験（10月）
- ・穂別高校との交流会（12月）

つべつ学Ⅲ

- ・学校説明会での3年間のまとめ報告（10月）
- ・成果物（動画）作成（10月～）

動画のフルバージョンは、遠東テレビのYouTubeで見られます

つべつ学Ⅱ

今年度も津別町と北海道大学公共政策大学院のHALCCとの三者連携により、約半年間をかけて一人一人が津別町活性化案を考え、12月16日（土）に行われた成果報告会で提言しました。

- ・高大連携事業（9～12月）
- ・北大マルシェ（9月）
- ・成果報告会（12月）